

# 平成 22 年度 第 3 回理事会議事録

平成 22 年 12 月 15 日(水) 19:10 ~ 22:30 於: 県士会事務所

出席者: 上遠野純子, 畑中一枝, 道又顕, 鈴木真紀, 半沢正道, 渡邊由香里, 大黒東北学会会長

理事 6 名 / 15 名, 他 1 名

欠席者: 本地光弘, 大貫操(委任状有り), 本多ふく代, 久保田美代子(委任状有り), 葛西康(委任状有り), 佐久間聡子, 鈴木ひろみ(委任状有り), 原田勝行, 吉崎勝哉, 監事佐藤善久, 監事高橋由美

## 【審議事項】

### 1) 次年度役員改選に向けたタイムスケジュールの確認(定期総会 H23.5/22(日))

定期総会の日程が決定したこと, 会場を東北文化学園大学に打診中であることが報告された。選挙管理委員へ具体的な公示の仕方などの検討を依頼し, 3 月に定期発送する予定。総会資料作成は, 決算を H22.3 ~ H23.3 分までとし, 4 月下旬に完成する予定であることが報告された。

### 2) 次年度活動計画に向けた基本方針の検討

#### 【事務局】

会員管理について, OT 協会会員管理システムの利用を主体に出来るようにしていきたいとの報告がなされた。ニュース発行に関して HP の役割との住み分けを検討し, 今後の発行回数減を検討したいが, その場合, 賛助会員規定の変更の検討が必要であることが説明された。

定期発送の外注の利用については, H22 年度内に 1 度利用し, その後利用方法を検討していくこととなった。

#### 【事業局】

事業局の役割について今まで曖昧な部分があったとの報告に対し, 法人化に伴い, 具体的なプランを提示し意見を聞いたり, 企画書の形での提出をし, 書面に残すことが必要であるとの意見が出された。

#### 【学術局】

##### < 学術部 >

来年度の研究等助成事業について今年度と同様に来年度も継続するかという議題に対し, 事業の主旨を会員へ説明する機会を設けてはどうかという意見や, 予算額を上げてはどうかなどの意見が出され, 次回の定期発送で募集し, 応募がなければ来年度の必要性を今後検討することとなった。

学術誌「みやぎ作業療法」第 5 号を発行するにあたり, 原著論文が集まりにくいとの報告がなされ, 今後隔年にしたほうがよいか, 原著論文ではなく報告や特集ではどうかとの意見が出されたが, 毎年 1 回の発行は継続して行うこととなった。

また, 上記学術活動への会員の参画を促せるよう学術部主催での研修会を企画し実施したいとの報告がなされた。

##### < 教育部 >

現職者共通研修について参加費は各県士会独自の設定となっており, 若手会員への負担を減らせないかとの意見があり, 研修会参加費についての検討がなされた。生涯教育システムについて把握していない会員が多く, 研修を受ける意義を明確にし, 卒後教育のあり方について検討していく必要があるとの意見や, また会員数は徐々に増えるが, 事務処理にかかるコスト, 全体の収支の割合を明確に出すこと, 非会員の入会をどう促していくかの検討の必要性等の意見が出された。今後の研修会参加費設定については, 教育部で過去の共通研修参加者数, コストの算出を行い検討することとなった。

### 3) 会員管理運用マニュアル(案)について(事務局)

現在会員資格に対する内規作成中であることが報告され, 会費未納者への対応案, 所属不明者への対応案について, 猶予期間内で届出のないものは退会扱いにするという方向で内規に示すこととなった。

協会退会者への対応案に関しては, 組織率の向上を図るのであれば定款の修正が必要であるが, 来年度の様子を見て検討することとなった。

協会名誉会員への対応については、県士会名誉会員制も作るべきではとの意見が出され、総会での承認を得ることとなった。

- 4) 石巻地域リハビリテーション検討会委員の推薦について  
地域性も鑑みて吉崎理事を推薦することで承認を得た。

【11/17 常任理事会報告】

上半期決算および補正予算の確認、次年度収入確保の検討が必要であることが報告された。

士会裁量ポイント付与に関して、全国学会実行委員会も該当するものとして H21 年度、H22 年度分を 2 ポイント付与することとなり、学会実行委員会へ名簿提出を依頼していることが報告された。

現職者共通研修の協会員以外(海外ライセンス保持者)の方の講師依頼について、協会に確認を行い、外部講師扱いとしたことが報告された。

都道府県協議会 東北北海道地区 リーダー養成研修会企画について、結果の返信がまだのため、問い合わせ中であることが報告された。

【各部局からの活動報告、検討事項】

**会長**

- ・第 13 回県学会企画案について報告された。抄録を切を 3 月中旬としていることが報告され、3 月定期発送で参加案内を行うこと、抄録は事前配布できるように作成し学会班が表紙のデザインを対応することとなった。
- ・その他渉外活動報告がなされた。

**事務局**

・H21 年度法人県民税、法人市民税の減免申請について市民税分が終了し、県民税は回答待ちであることが報告された。H21 年度収支決算書及び貸借対照表は HP へ掲載済みとの報告がなされた。

・佐久間理事の所属変更(仙台市障害者就労支援センター 仙台市発達相談支援センターアーチル)の報告がされた。

< 渉外部 > H23 - 24 年度 認定審査員推薦依頼状況が報告された。

< 庶務部 >

・今年度会員名簿が作成中であり、それに伴い 1 月定期発送日を変更したい旨報告され、承認された。

研修会案内が遅れるが、HP に掲載するなどの対応となった。

< 財務部 >

・H22 未納者、過去滞納者への督促状送付済みであることが報告された。会費未納者のチェック作業について、庶務部名簿とリンクできるよう共同で名簿整理していくことが報告された。

・1 回目決算報告は 12 月末を 1 月中旬まで財務に報告することとなった。

< 広報部 >

・県士会パンフレットの作成について部数を今年度印刷予算範囲内且つ 2 年程度で使いきれの量として 1000 ~ 1500 部としていたが、PR として各施設や希望のある会員に配布したり、教室・公開講座での活用も考慮し、2000 部を作成することとなった。また掲載する写真の協力を募った。

・研修会情報にブログ形式で別サイトを設ける件について対応準備中であることが報告された。

**事業局**

< 事業部 >

・仙台市テクノエイド人材養成委託事業について、2 回目の研修会が 2 月に行われる予定であるが、3 年間の積み上げ研修であるため案内は過去の受講者を主に行われることが報告された。

・宮城県通所介護サービス事業所への PT・OT 支援モデル事業について、12 月で事業は終了し、事業内容については次年度 5/22 県学会にて発表されることで報告がされた。

< 福利部 >

- ・ボーリング大会が中止となったことが報告された。
- ・OT協会からのハラスメント実態調査アンケートについて、県士会内の倫理委員会組織予定についての設問に対し、現段階では未定との回答とはなるが、今後検討必要であることが話し合われた。

**学術局**

< 学術部 >

- ・学術誌「みやぎ作業療法」第 4 号の進捗状況について報告された。査読者リストを作成したい旨報告された。また 5 号の投稿案内を発送し特集テーマの募集をかけることとなった。
  - ・研究等助成事業の募集について HP 上に詳細を掲載し、定期発送での案内文は 1 枚にまとめることとなった。
- < 教育部 > 共通研修企画、選択研修企画報告、生涯教育推進委員会報告がなされた。

**常・特設委員会**

< 選挙管理委員会 > 選挙内規について会長が確認する予定。

< ブロック活動推進委員会 >

1 月中にブロック長会議開催予定であり、ブロックの再編を検討したいと報告された。

< 県学会実行委員会 >

特別講演講師、指定演題発表予定者への公文書送付済みであることが報告された。

< 緊急時対策委員会 >

会長より今後委員を募りながら OT としてどのような支援が出来るかなど組織を作り、あり方を検討したいとの意見があった。

< 第 22 回東北作業療法学会実行委員会 >

12 / 20 以降各県士会へ案内発送予定であること、講師は大体決定したこと等が報告された。  
HP を立ち上げ、写真掲載する予定だが、OT と利用者様の写真が掲載できないか、調整中である。  
プレコンgresセミナーの開催形態について、位置づけについての検討がなされ、県士会との共催とする方向で調整することとなり、経過は随時 HP 上に掲載することとなった。

< 特設委員会:訪問リハステーション研修会関連 >

3/5-6 の日程で、OT 士会、PT 士会が主体で企画し、ST に関しては宮城言語臨床研究会が参加する形で行うこととなり、実施場所は仙台医健専門学校に打診中であることが報告された。